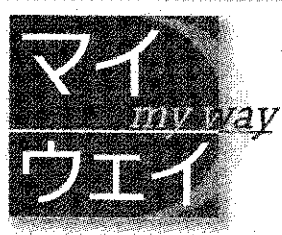


大学の使命

専任教員となると、自分の専門以外にも、学部学科を超えて全ての学生の必修となっている授業も担当する。カトリック大学である南山大学は、設立当初から宗教、とりわけキリスト教に関連がある科目を必修科目として位置づけてきた。



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 28



ヨハネ・パウロ2世教皇に謁見
(ローマ、聖ペトロ広場)

私も専任になった最初の年(1973年)に受けた父である私にとってやり甲斐のあるキリスト教概論(今は宗教論という名称)で、キリスト教どころか、宗教全般に対してあまり関心を持っていた。

学生がローマ法王と接する

心のない学生に、宗教の個人的な意義と社会的な役割について講義した。土曜日の午前中に開講された授業だったこともあり、学生が喜んで出席していたとは言えないが、精神的に、L.L.C (Logos Life Community) というクラブの拠点となっていた。日本へ帰ってきた私の最初の住まいはこのロゴス・センターであったので、クラブ等の行事に参加して、授業以外の形で学生との接点を得ることができた。しかし、自分が神父なので、自分が人生相談にくると思っていたところ、学生に人気があったのは、センターの受付で働いていた、「お姉さん役」の従業員の方だった。

ロゴス・センターの年間行事の一つは夏の学生研修旅行であった。イギリスで3週間のホームステイと英語研修の後、さらに3週間、バスに乗って、ドイツからだんだん南に下って、スイス、イタリアを通過して最後にギリシアのエーゲ海の海水浴場で旅の疲れを癒やしてから日本へ帰った。研修旅行の一つのハイライトはローマ法王との謁見(えっけん)であった。パチカンと関わりのある神言会会員の紹介もあって、きもの(実は浴衣)姿の学生はいつも最前列に案内された。間近で法王にあいさつすることができたことは、学生たちにとって非常に大切な思い出になったよつであつた。